福祉用具阻害要因

操作性・費用が上位

ふくせん調査

◀ふくせんの岩元文雄理事長

介護ロボットの開発・普及策を進める国の施策を踏まえ、（社）全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん／東京都港区）は、「在宅における介護ロボット普及に向けたシンポジウム」を先月24日都内で開催した。

福祉用具専門相談員と介護支援専門員を対象に行われたアンケート調査の中間報告がされ、福祉用具専門相談員のうち可搬型階段昇降機を提案した経験があるのは42・3％、自動排泄処理装置を提案した経験があるのは半数という結果が報告された。福祉用具導入阻害の要因として多かったのが「操作性・メンテナンス」「費用負担」。機械への苦手意識や人的サービスの方が望ましいなどの心理的要因も大きいことがわかった。

また、メーカーによる介護ロボットの紹介も行われた。アロン化成は、屋外仕様・室内仕様の2通りがある家具調の水洗ポータブルトイレを紹介。大和ハウス工業は着脱式の車いすの緊急避難装置「JINRIKI」、グッドデザイン賞を受賞した、健常者が使用する難聴者との会話支援機器「COMUOON」について説明した。

ふくせんの岩元文雄理事長は「地域包括ケアの中核を担うのが福祉用具」と述べ、普及・促進に努めるとした。

高齢者住宅新聞　2015年3月11日　10面